

## 第2部

音韻障害を併せ持つ吃音児の協調運動発達の特徴

## 第1章 目的

第2部においては、音韻障害を併せ持つ吃音児の協調運動発達について、(1) Webster の Interhemispheric Interference Model (I.I.M.; Webster, W. G., 1990) に基づいて設定された協調運動課題を用いて検討を行うとともに、(2) 音韻障害を併せ持つ吃音幼児に協調運動スキルの向上に焦点をあてた指導を実施しその指導効果について検討を加えることで、音韻障害を併せ持つ吃音児の協調運動発達の特徴について検討を加えることを研究の目的とする。